

霧島山

概 況

御鉢では、監視カメラで時々火口縁上に噴気が上がっているのを観測するなど、やや活発な状態が続いています。

噴気活動の状況

監視カメラによる観測では、御鉢の火口縁上、高さ 50～400mの噴気が時々上がっているのを観測しました。噴気高度の最高は、26 日の火口縁上 400mでした(図 3)。

新燃岳火口周辺では、噴気活動に大きな変化は認められませんでした。

地震・微動活動の状況

霧島山の地震回数(気象庁観測点 A 点)は、82 回(12 月：123 回)で、先月より少なくなりました(図 1 の)。

震源が求まった地震は 40 回で、そのほとんどが新燃岳の西から北西約 7 km 離れた領域に分布しました(図 4)。

新燃岳

新燃岳付近を震源とする火山性地震は少ない状態で経過し、1 月の月回数は 5 回(12 月：10 回)でした(図 2)。

新燃岳付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

御鉢

御鉢付近を震源とする火山性地震は少ない状態で経過し、1 月の月回数は 2 回(12 月：4 回)でした(図 1 の)。

御鉢付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした(図 1 の)。

地殻変動の状況

GPS 連続観測(気象研究所の観測点を含む)では、各観測点間の基線長には、火山活動に対応する変化はありませんでした(図 6)。

また、気象研究所の 3 点の傾斜計には、火山活動に対応する変化は観測されませんでした。

微動継続時間の基準見直しについて

霧島山の微動検測について、より客観的評価を行うために、火山性微動継続時間の検測基準を見直し、2 月 1 日から運用を開始します。御鉢の過去の微動についても、新しい基準で見直しました。これにより、2004 年 3 月 26 日に発生した 4 時間 14 分の微動継続時間が 4 分になるなど、全体的に大幅に短くなります。また今後、御鉢については東京大学地震研究所の高千穂西観測点と気象庁機動観測の高千穂峰観測点を、それぞれのグラフで表します(図 1 の -1、 -2)。

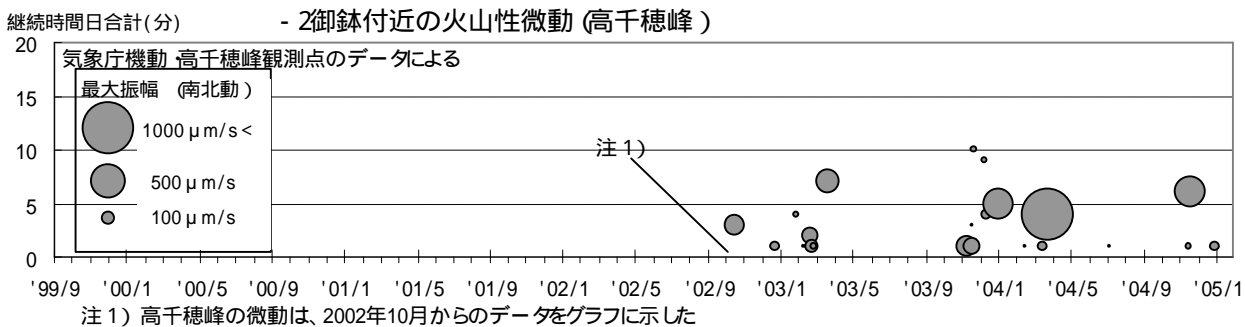
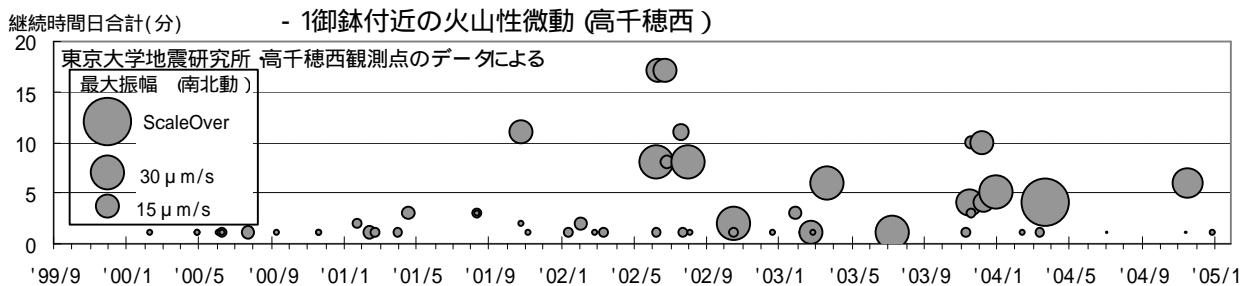
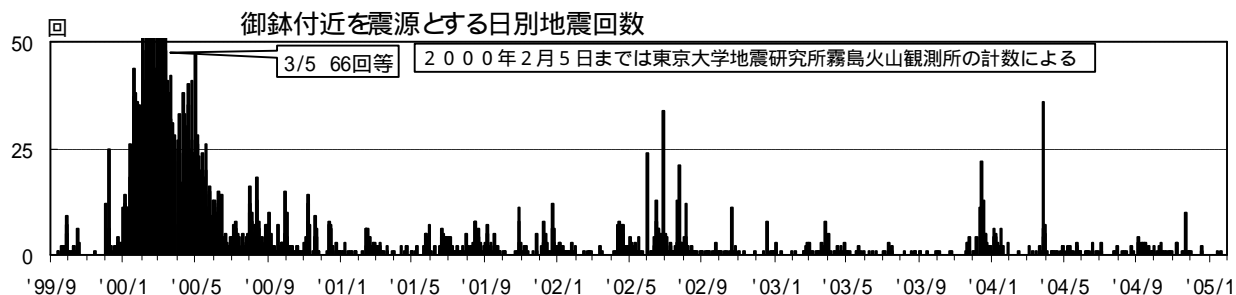
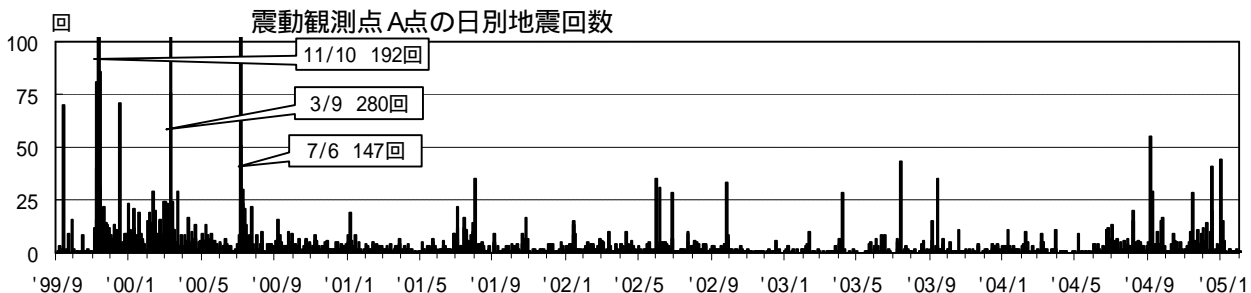


図1 火山活動経過図(1999年9月1日~2005年1月31日)
御鉢の過去の微動については、検測基準を見直し、グラフを作成した。

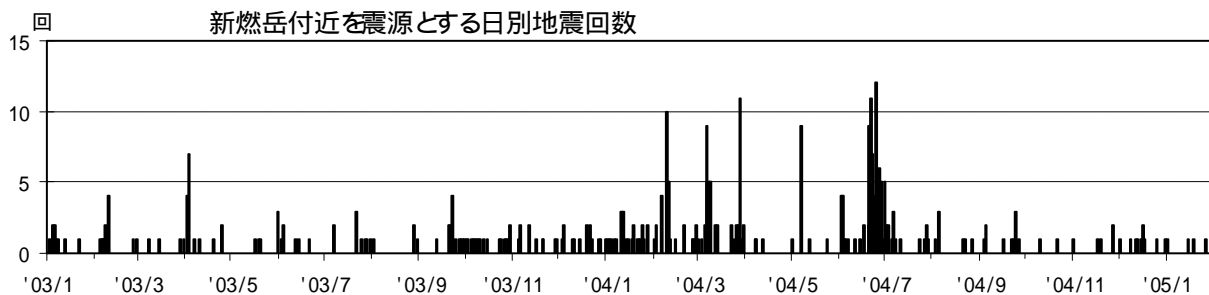


図2 火山活動経過図(2003年1月1日~2005年1月31日)

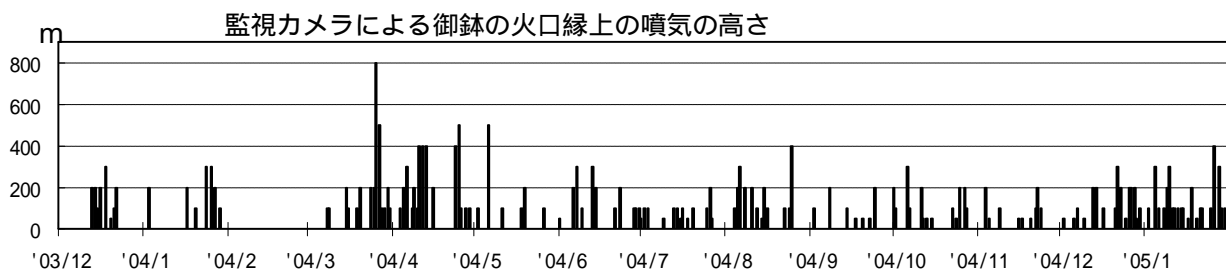


図3 御鉢火口の噴気の最高高度(2003年12月1日~2005年1月31日)

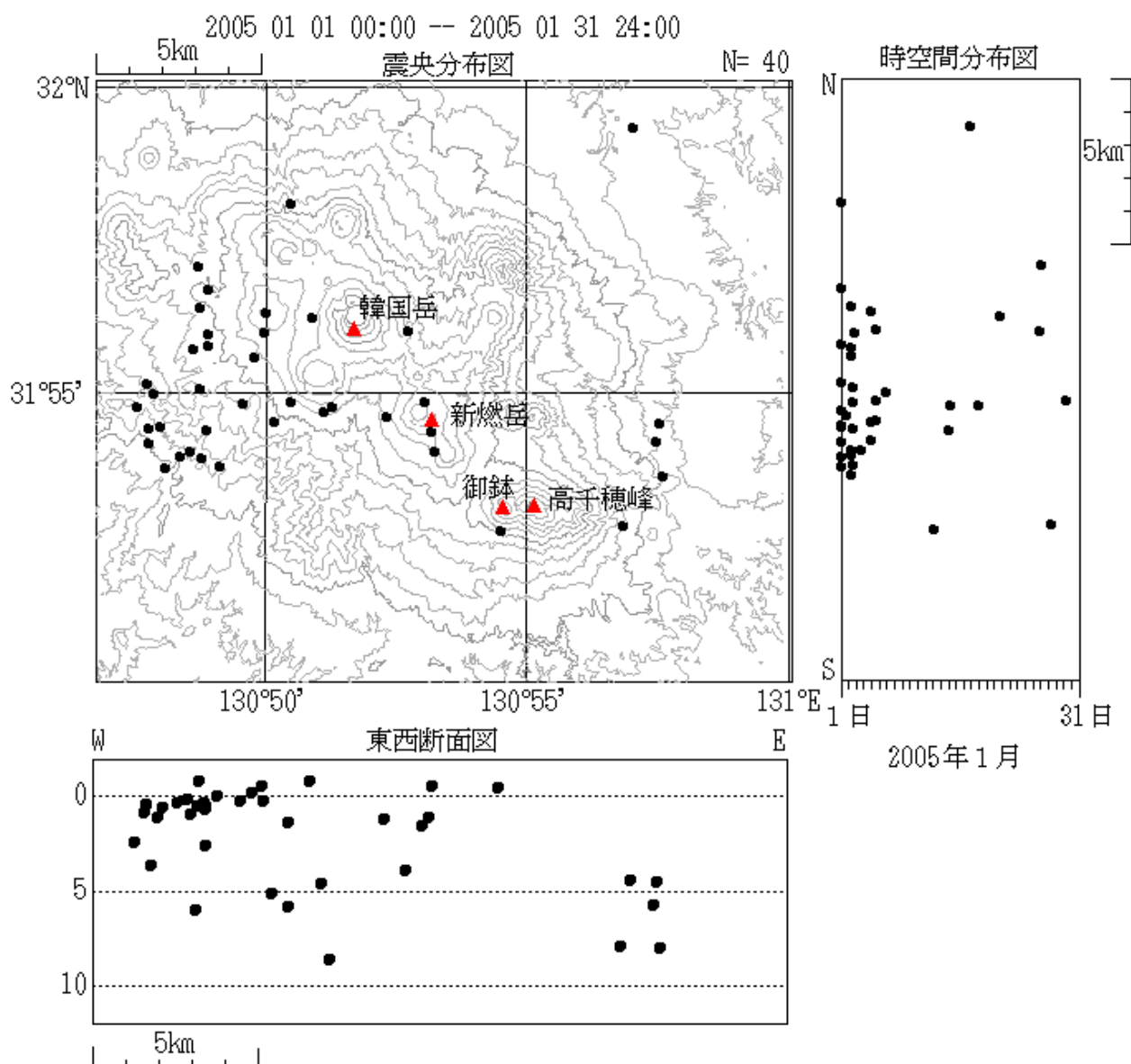


図4 震央分布図(上)、断面図(下)、時空間分布図(右)
(2005年1月1~31日)

本資料は、防災科学技術研究所、東京大学、気象庁のデータを用いて作成している。

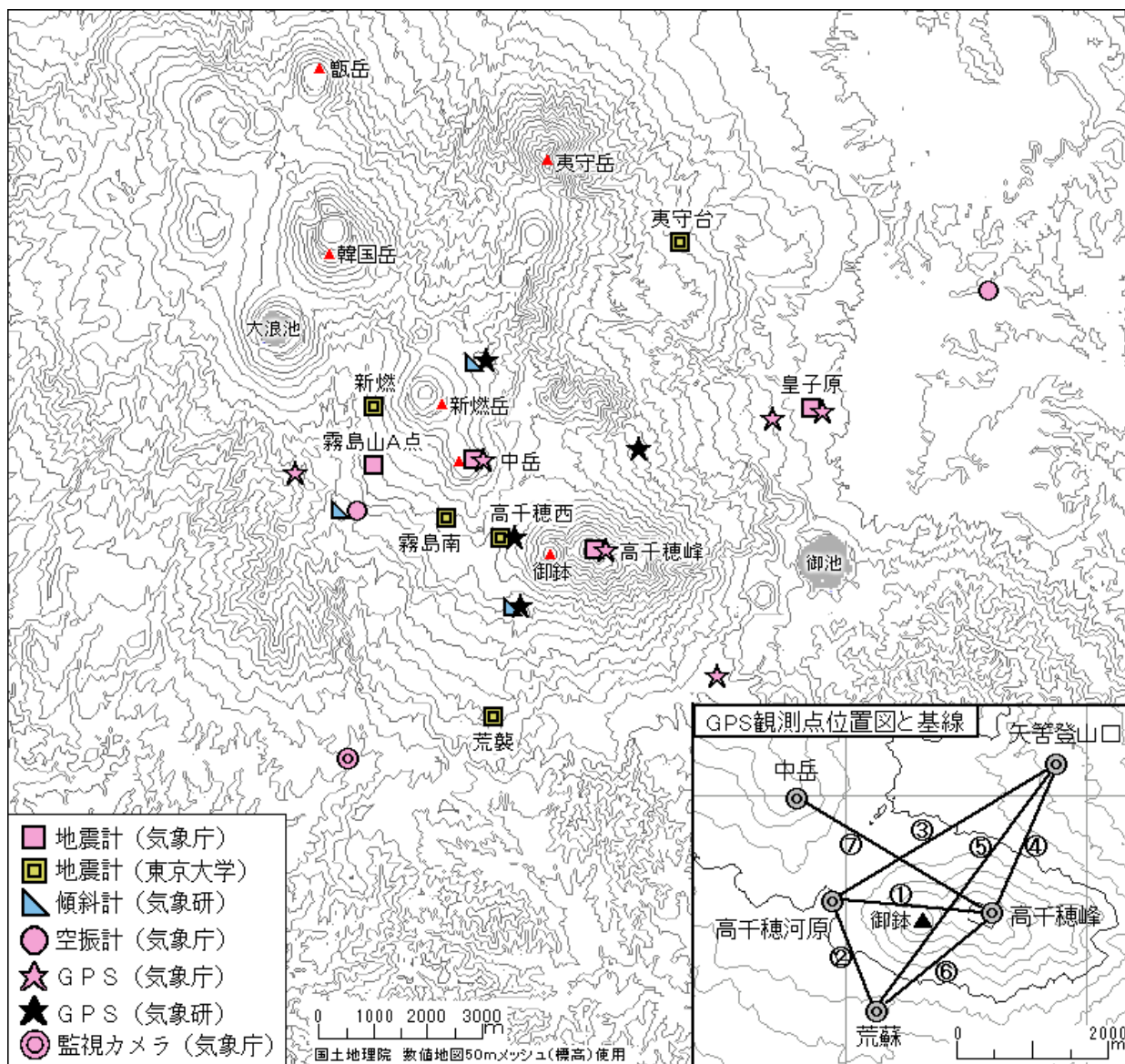


図5 霧島山広域観測点位置図(気象庁監視)

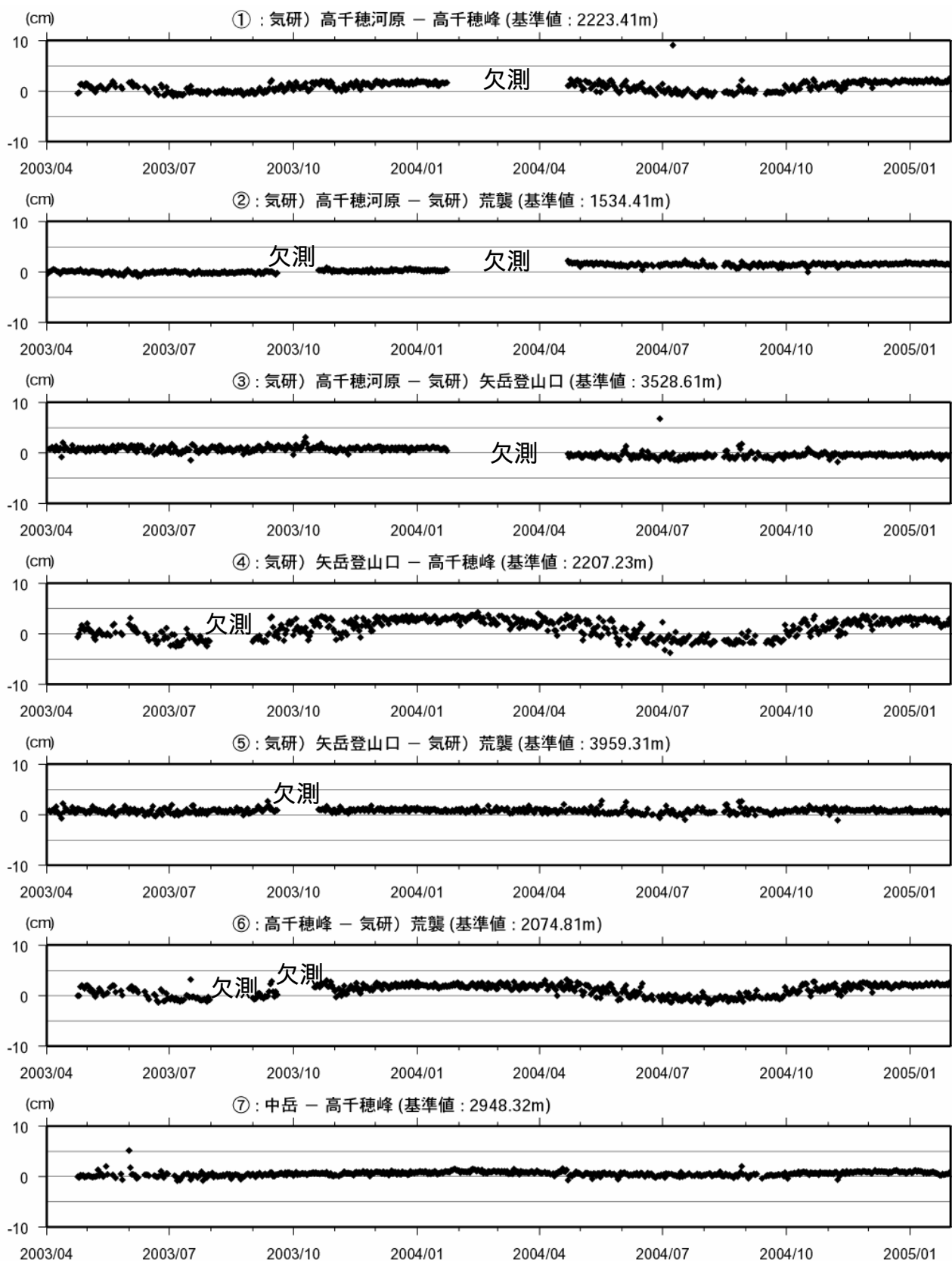


図 6 GPS による基線長変化(2003 年 4 月 1 日 ~ 2005 年 1 月 31 日)